

平成 29 年度防災教育・復興教育推進事業（いわての復興教育スクール）成果報告書

学校名：岩手県立岩泉高等学校

I 事業の概要（地域の実情含む）

1 岩泉町

耕地面積は少なく、林野率が高い。小本川、安家川、摂待川の流域に沿って集落を形成している。東日本大震災津波による小本地区の復興半ば、2016 年台風 10 号豪雨災害で町のほぼ全域が被災。

-参考値-

東西 51km 南北 41km（盛岡駅-北上駅間約 46km）
人口 9,579 人 4486 世帯（H30.2.28 現在）

2 岩泉高等学校

地域の青少年教育の必要性が高まる中、明治から昭和にかけて続いた凶事・凶作の解決のために町立農業学校として 1943 年に設置されたことから始まる。現在は県立の普通科高校、岩泉・田野畑地域唯一の高校として、2013 年に創立 70 周年を迎え、今年度は 149 名の生徒が在籍している。

3 地域課題探求型学修 KIZUKI プロジェクト

今年度から学校全体で、総合的な学習の時間に地域課題探求型学修に取り組始めた。

プロジェクトの前半では地域の様々な組織との連携の下、生徒が地域と直接向き合い、自分自身と地域のつながり方を広げ、「グローバルな視点」と「課題を我が事として考える視点」に気づき、課題解決力と価値生産力を築いた。

「防災教育・復興教育」は KIZUKI プロジェクトの最後に「発展」として位置づけ、【「自分の未来像」を具体的に探るための「各組織の今」を知る】と銘打ち、体験・見学を行った。

プロジェクト全体を通して、キャリア教育で目指す「総合生活力」「人生設計力」の育成を意識しながら、復興教育の定義である 3 つの教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」を育成した。

II 取組の概要

1 避難訓練（火事想定）の実施（全校）

(6/1) 火災を想定した避難訓練を行った

2 地元商店街イベント（手仕事市）（有志参加）

(6/10, 11) 地元商店街の民間有志主催によるイベ

ントに当日スタッフとして参加

3 地域課題探求型学修 KIZUKI プロジェクト（全校）

(1) (6/27) 「気づき・計画」

ア) 講演「社会に求められる力とは～社会に開かれた学びの重要性～」講師東北学院大学特任准教授 菊池 広人氏

・「問題」と「課題」の違い

・これまでとこれからの「学び」と「働き方」

・進路選択において今求められている「力」とは

・今回のプロジェクトで目的としていることとは

イ) ワークショップ「地域の課題を見つけよう」

・個人で「地域の課題」のイメージを具体化する

・その中で、取り組みたいテーマを設定する

・そのテーマで、2～7 人のグループをつくる

・グループで、今後、取り組みたい具体的な地域の課題の「仮説」を設定する

(2) (夏休み, 8・19) 「仮説の内化・外化」

設定した仮説の中で、より効果的に地域の課題を解決するための最終確認の実施

(3) (9/21) 「実践」アクションデー

岩泉町内外の組織とチームごとにアクションの実施

(4) (9/28) 「結果・考察」

仮説設定した課題をアクションでどのように解決できたか評価し、個人として得られた学びを整理

(5) (9/30) 「発表」文化祭での取組成果発表

全グループが模造紙発表し、各学年 1 チームずつステージ発表

4 地元商店街イベント（いわいずみのみずいわい）（有志参加）

(8/5, 6) 地元商店街の民間有志主催によるイベントに当日スタッフとして参加

5 1 年生復興教育デー（田老学ぶ防災・三陸沿岸道路工事現場見学）

(10/25) 震災津波・台風という二重被災を抱える沿岸

地区を見学し、被害の状況を心に刻むと同時に、今後の復興の在り方を考える機会とする。

【日程】

午前：宮古市田老地区学ぶ防災（防潮堤での説明や旧たろう観光ホテルでのDVD鑑賞）



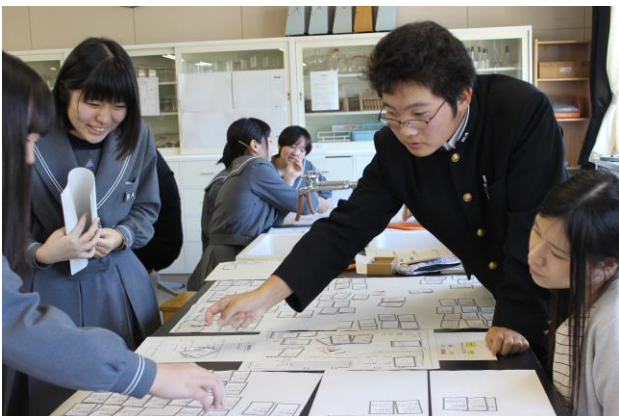
午後：三陸沿岸道路工事現場見学（台風10号豪雨被害の影響により工期が遅れていながらも、確実に進んでいる道路工事と技術を目の当たりにした）



6 3年生復興教育デー（講演会・HUG等）
（10/26, 30）郷土に目を向け、郷土の将来と自分の生活を自助・共助・公助の面から考える機会とする。

【日程】

（10/26）午前：HUG、岩泉町役場復興課による講演
午後：岩泉乳業（株）社長講演会、工場見学
（10/30）岩泉消防署長講演会



7 2年生インターンシップ（町内企業など）

（10/25～27）「地域課題探求学修KIZUKIプロジェクト」の締めくくりとして、実際の職場で働く人達のアクションとしての仕事を体験する。



8 救急救命講習（1年）

（2/27）負傷者の救助について体験した。

9 三陸沿岸道路田老真崎海岸IC-岩泉龍泉洞IC開通記念ウォーキング（有志参加）

（3/21）1学年時に見学した、三陸沿岸道路の完成を自らの目と足で確認し、復興を感じる。

III 取組の成果と課題

1 成果

郷土理解と地域の課題解決を柱に置き、学校と地域の組織を連携しながらのプロジェクトを展開したことで、地域を知った上での、自身の進路選択を考える生徒が増えた。

地域とともに活動する機会が増えたことで、地域と学校が一緒になって復興の担い手になっていこうという雰囲気が醸成され始めた。

2 課題「地域と連携しての災害の伝承」

本県沿岸北部には「一生の間に3度津波に遭う」という言い伝えがある。とりわけ、青森県東方沖が地震発生の空白地域になっていることから、津波防災教育が喫緊の課題である。

また、豪雨災害に関しては、2016年台風10号のような太平洋側からの直接上陸による豪雨被害は約100年前（1913）にも起きていた。しかし現代には伝わっておらず、まさに「災害は忘れた頃にやってきた」。

2017年5月には水防法が改正され、地域と連携しながらの防災教育の充実が求められるようになったことから、災害を過去のものとはせず、次世代に伝えるためには、生徒のみならず、教職員への防災教育も必要不可欠である。